

絆の大切を世界に発信

東陵高3年 加藤英介君 夏季ダボス会議ジュニア参加



加藤英介君

東陵高校3年の加藤英介君が、14日に中国で始まる夏季ダボス会議のジュニアリーダー

ズプログラムに参加する。世界のトップリーダーと交流し、被災地のメッセージを世界に届ける。

被災した若者のリーダーシップ教育支援事業「ビヨンドトゥモロー」の一環として、教育支援グローバル基

金が主催。被災地の高校生と大学生を対象に参加者を公募し、宮城、岩手、福島から7人が選ばれた。

世界経済フォーラム(本部・スイス)による夏季ダボス会議は、大連市で16日まで開かれる。政治家やジャーナリスト、芸術家ら各界で活躍するリーダー約1500人が参加。さまざまなテーマで議論を交わす。日本からは元総務大臣の竹中平蔵さん、三菱商事の小島順彦会長、オリックスの宮内義彦会長らが参加する。

今回は東日本大震災の状況を伝えるため、被災地の若者に特別枠を用意。公式・非公式な会合で東北の状況を発信するとともに、大連市の高校生や大学生、四川大地震の遺児らと交流する。

加藤君は震災で気仙沼市錦町の自宅が全壊し、避難していた鹿折中から燃え上がる鹿折地区を目の当たりにした。しかし、父親の経営するホテル望洋に泊まった大学生ボランティアらと交流するつ

ち、前に向かって積極的に考えて行動する精神を学んだという。

プロジェクトには先生に勧められて応募し、「震災では絆の大切さも感じた。気仙沼の人たちの思いも担って、学んだことを世界へ伝えるため、自分の力を最大限発揮したい」と意気込みを語る。高校ではインターアクトクラブの会長を務め、将来は古里で復興事業に携わりたいという。